

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01322

研究課題名（和文）オスマン帝国における社会階層とジェンダーに関する国際共同研究

研究課題名（英文）International joint research on social class and gender in the Ottoman Empire

研究代表者

秋葉 淳（Akiba, Jun）

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：00375601

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、17世紀以降のオスマン帝国社会の変容を社会階層とジェンダーという視点から明らかにすることである。この課題につき、ウラマー（特に裁判官）や軍人（特に近代の将校）をはじめとする、オスマン帝国社会を構成する多様な社会集団の社会的位置付け、出身階層、国家との関係などを検討し、また、とくに学校教育と法廷という場に着目して、その利用者の社会階層とジェンダーを分析して女性や庶民層の役割を浮かび上がらせた。こうした研究を国際共同研究として、海外の研究者たちとの協働を通じて展開し、セミナー、ワークショップ、国際会議などを開催することで研究成果を共有しあい、海外研究者との研究協力関係を築いた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来のオスマン帝国史研究が国家を中心に捉える傾向が強かったのに対し、本研究は社会に重点を置いて社会階層とジェンダーの視点から分析を加え、独自の知見をもたらした。依拠した史料についても、未利用の史料の発掘や新しい利用法の開拓により、独創的な成果を生んだ。また、本研究は国際的な協働を推進し、国際共著論文の刊行や国際学会でのパネル発表など、国際的な学界でも成果を残した。研究会は原則的に公開で行い、2022年以降は多くを対面とオンラインで同時開催した。これによって実際に研究者でない一般参加者もあった。オスマン帝国の世界史的重要性に鑑み、その歴史知識が社会に広く共有されることにも大きな意義があった。

研究成果の概要（英文）：This research project examines the transformation of Ottoman society since the seventeenth century from the perspective of social class and gender. The project has focused on various social groups, including the ulema (especially judges) and the military elites (especially modern officers), to investigate their social position, social origins, relationship with the state, etc. We have also analyzed the social class and gender of the beneficiaries of education and the litigants in court to highlight the role of women and non-elites. This research was conducted as an international joint research project in collaboration with foreign researchers. The research results were shared through the organization of seminars, workshops, and international conferences, and collaborative research relationships with foreign researchers were established.

研究分野：オスマン帝国史

キーワード：オスマン帝国 社会階層 トルコ 国際共同研究 ウラマー 軍人 教育 法廷文書

### 1. 研究開始当初の背景

オスマン帝国史研究において、長らく国家が関心の中心に位置してきた。社会経済史の伝統も存在するが、それすらも国家を中心にとらえる傾向が根強かった。国家と截然と分かつことのできる社会という領域が存在するのかどうかは議論すべき問題であるが、オスマン帝国における社会に重点を置く研究が求められていると言える。

社会や社会的事象を分析するにあたって、社会を構成する人々を地位、職業、宗教、ジェンダーなどにに基づくカテゴリーに区分することは基本的な方法である。オスマン帝国において階層を問題とする際にまず基本となるのは、アスケリー(免税特権をもつ支配層)とレアヤー(納税義務を追う被支配層)という区分である。しかし17世紀以降、アスケリー/レアヤーの境界が曖昧化し、社会がより流動的になったことが指摘されている。商工業に関わるイエニチェリ、多様な出自をもつ地方名士層、徴税請負人などはその区分の曖昧性を示す代表例である。とすれば、少なくとも17世紀以降のオスマン社会をアスケリー/レアヤーという区分を基本にして捉えることは必ずしも有効ではない。

さらに19世紀に入ると社会的流動性はさらに加速化し、新しいタイプの官僚や軍人、また、医師、弁護士などの専門家集団も登場する。無論、エリート層だけが問題なのではなく、工場労働者などの新しい社会層が加わるのも19世紀である。こうした階層や集団がどのような起源(出自)をもつのか、あるいは、どのように社会に位置づけられたのかなど、十分な研究がなされてきたわけではない。

社会階層の分析に、ジェンダーによる差異・区分はもはや無視してはならない視点である。オスマン帝国史研究において、女性運動、女子教育、女性誌などについて女性史研究は多くあるが、ジェンダー概念が導入されるのは1990年代以降である。ジェンダー秩序によって律せられる宮廷の研究や、ジェンダー規範が大きな役割をもつ法の領域の研究がその主なものである。近代については労働者や戦時下の女性が研究対象とされている。これらの研究は、社会の中の女性の位置付けについて再考を促してきたが、ジェンダー史研究は(とりわけ日本では)まだ決して主流ではない。

### 2. 研究の目的

本研究は、17世紀以降のオスマン帝国社会の変容を社会階層とジェンダーという視点から明らかにすることを目的とする。すなわち、オスマン帝国社会がどのような社会階層・集団から成り立っていたのか、そしてそれがどのように変化したのかという問題を、社会を構成する人間集団のさまざまなカテゴリーに着目して明らかにしようとするものである。言い換えれば、オスマン帝国社会を構成するさまざまな階層、社会集団の特質や相対的位置付け、それらの変化を分析することにより、オスマン社会の階層構造とその変容を把握することを課題とする。

本研究は、オスマン帝国の17世紀以降の変化を国家機構の再編の視点からでなく、社会構造、社会秩序の変遷として捉えることを特色とする。こうした研究から得られる結果を比較可能な形で提示すること、それによってオスマン帝国を世界史的観点から位置付けることを目指す。また、この研究を国際共同研究として展開することによって、海外の研究者との協働関係や学術的交流を深め、日本のオスマン帝国史研究の水準を高めることも、本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究は、研究代表者・研究分担者・研究協力者による個別および共同の実証的研究と、国際的な連携に基づく協働との総合によって進められる。研究の基礎となるのは一次史料に基づく実証的な歴史研究であり、研究遂行のための一次史料(オスマン帝国の行政文書、法廷文書、写本、刊本など)を各地の文書館・図書館等で収集し、分析を行う。

(2) 特定の社会集団の研究を行う。オスマン社会を構成する特定の地位や職業などを共有する社会的カテゴリーについて、その経済的基盤、社会的役割、政治的諸関係、構成員の出自、集団内部での階層性などの特質、他の諸集団と関係、社会の中での相対的位置などを探究する。

(3) 特定の場における階層とジェンダーの研究。例えば学校や法廷といった特定の場に関わる人々の階層とジェンダーに着目して分析することで、階層秩序やジェンダー秩序がどのように現れ、構築され、再生産されるのかを検討する。とくに、教育を受容する側の階層・ジェンダー、法廷を利用する階層・ジェンダーの分析を行う。

(4) 特定の史料(群)に基づき、共同でデータベースを作成して計量分析を行う。遺産目録や卒業生名簿など多数のデータを含む史料の分析にあたっては、共同研究によって史料の解釈とデータ入力を分担して行い、それぞれの知識を持ち寄って異なる視点からの分析を試みる。

(5) 海外の共同研究者を招へいし、国際会議、ワークショップ、セミナーなどを開催して意見交換、学術交流を行うことで、本研究を国際共同研究として展開する。また、国内研究会を開催して意見の交換や、問題関心・研究成果の共有を図る。東京大学東洋文化研究所班研究「オスマン朝史料学的方法的課題」や学術変革領域研究(A)「イスラーム共同体の理念と国家体系」(代表:近藤信彰)と連携しつつ、共同で研究会の開催などを行う。

## 4. 研究成果

### (1) ウラマーの研究

裁判官（カーディーとその代理ナード）は司法のみならず民政の主要な担い手であり、ウラマー層に属し、国家エリートの重要な一角を構成する。裁判官の遺産目録を用いた国際共同研究として、研究代表者の秋葉は、Z. ドルテュク＝アバジュ（ブルサ・ウルダー大学）、M. ジョシュゲル（コネティカット大学）、B. エルゲネ（ヴァーモント大学）とともに、17世紀末から19世紀初頭のオスマン帝国裁判官の遺産目録を調査し、彼らの財産蓄積、その時代的変遷、裁判官内部の格差を分析した。その結果、裁判官の遺産総額は地位によって大きな開きがあり、高位でないサブグループの裁判官において社会全体から見て中位かそれよりも少ないことや、全体として債務が遺産総額を超過する例が多いことなどが判明した。この成果は、国際学術誌 *Journal of the Economic and Social History of the Orient* に論文として掲載された。

また、秋葉は18世紀に裁判官による代理委任が普及する事象を検討し、カーディーの官位を保持する集団クザートが形成される一方で、裁判官の実務がナードによって担われるようになったメカニズムを明らかにするとともに、高位のウラマーの経済的基盤が、ナードによって徴収される法廷収入にあることを指摘した。この成果は、国際学術誌 *Bulletin of the School of Oriental and African Studies* に論文として掲載された。

そのほか、研究分担者の松尾有里子は、ウラマー名望家の連続性について、裁判官を含むエリート・ウラマーを輩出したエブスード家を中心に研究した。また、特任研究員の長谷部圭彦は、近代の法曹の養成について検討した。

### (2) 軍人層の研究

オスマン帝国近代の陸軍将校は青年トルコ革命そしてトルコ独立戦争で中心的な働きをしたため研究上、注目はされるものの、集団として彼らの出身階層を分析した研究はほとんどない。今回、陸軍士官学校および予科士官学校の在校生・卒業生の名簿をもとに士官学校生の出自を分析する研究を研究代表者の秋葉と研究協力者の永島育の共同で行った。その暫定的成果は2022年の九州史学会で発表した。中でも興味深い分析結果は、職人・商店主を親にもつ者が比較的多いという点で、これはオスマン帝国の他のエリート養成学校には見られない特徴である。また、永島はオスマン陸軍将校の軍服の変化に着目し、それが象徴する社会的地位や男性性について考察した。

近世オスマン帝国の軍人については、分担者の川本智史が、バルタジュと呼ばれる集団がトプカプ宮殿のハレム（後宮）の護衛などの役割を担うことにより地位を高めたことを検討した。また、2024年1月には、国際ワークショップ *Military Elites in the Early Modern Islamic World and Beyond* を開催し、オスマン帝国、サファヴィー朝、そして近世日本の軍事エリートとその文化の比較考察を行った。

### (3) 教育における階層とジェンダー

1868年のイスタンブールの初等学校調査記録を用いて代表者の秋葉、分担者の守田まどか、特任研究員の長谷部圭彦の共同研究により、分布、規模、女子学校・女性教師の存在などについて分析した。この成果についてはトルコ語の共著論文を投稿予定である。

秋葉は1836年のアンカラ県の人口調査台帳（男性のみ）を調査することにより、初等学校に通う男子の年齢や親の職業について分析した。その結果、県内の町や郡により「就学率」に大きな差があることが判明し、また、農民や半遊牧民の間でも男子を初等学校に通わせることが一般的であったという結果が得られた。この成果については2022年の国際学会で発表した。

### (4) 法廷文書にみる階層とジェンダー

代表者の秋葉は、バルカン地域の一地区の法廷について1840-41年の収入台帳等を利用して、法廷の原告・被告の社会階層やジェンダー、訴訟案件の種類等を分析した。その結果、職人や商店主が日常的な債務問題を解決するために法廷を頻繁に利用していたこと、女性の利用者の割合は1割に満たないことなどが明らかになった。この成果は、2023年3月の国際研究集会、同年9月の国際学会などで発表した。秋葉はまた、アンカラ、コンヤなどの18世紀の法廷台帳を用いて、法廷文書に見られる女性の財産権や法的主体としての行動、婚姻や離婚等における女性のエージェンシーなどについて検討した。

また、分担者の澤井一彰は、16世紀イスタンブールの法廷史料に見られる飲酒行為摘発の記録に着目して、摘発される側にも取り締まる側にも多く含まれる不正規兵の存在を指摘した。分担者の守田まどかは法廷史料から18世紀のイスタンブールの街区構成と非ムスリム共同体との関係などについて検討を加えた。

### (5) その他の研究対象とその成果

分担者の岩本佳子は、オスマン帝国末期における遊牧民集団と国家との関係の変化について検討し、遊牧民を統合しようとする国家の論理を遊牧民側も自己の利益に利用していたことなどを明らかにした。また、分担者の小笠原弘幸は、オスマン宮廷のハレム（後宮）を中心に、宮

廷のジェンダー構造を分析し、分担者の松尾有里子は19世紀末に登場した女性雑誌の読者層の研究を、そして分担者の川本智史はイスタンブルの都市空間を構成する住宅の特徴とそこに住む住人についての研究を行った。特任研究員の佐治奈通子はボスニアの修道院のアーカイブを調査し、カトリック修道院の土地所有やオスマン帝国役人との関係を分析した。

#### (6) 新史料の開拓と史料の新しい利用法

上記の研究は、これまで十分に利用されてこなかった史料の発掘や、既知の史料であっても従来とは異なる新しい利用法の開拓をともなった。とくに、陸軍士官学校及び予科の学生名簿、1868年のイスタンブルの初等学校調査記録、人口台帳に記録された就学状況、法廷の収入台帳などは新史料と言えるものであり、新事実の発見につながっている。また、裁判官の遺産目録の研究は回帰分析など統計学的手法を駆使したもので、法廷台帳の研究では文書の作成理由に着目することで史料の新しい読み方を提示した。

#### (7) 国際会議・研究会等の開催

セミナー・ワークショップ・国際会議などの研究会を4年間で計14回開催した(共催も含む)。そのうち「環太平洋オスマン帝国史研究国際会議」は、海外から5名(米国3、韓国1、イタリア1)、国内から4名が報告者として参加して2日間にわたって東京大学で開催されたものである(2023年3月)。この国際会議では思想史、法制史、都市史など多様な角度からのオスマン帝国史の最前線の成果が共有され、有意義な意見交換が行われた。この国際会議に参加した海外研究者のうち3名により、ワークショップ“Circles of Trust: Marriage, Village Guarantors, and Private Reading Groups in the Ottoman Empire”を同志社大学で共催した(2023年3月)。国際ワークショップ Military Elites in the Early Modern Islamic World and Beyond は、トルコからの1名、国内から3名が報告したもので、オスマン帝国の軍事エリートについてサファヴィー朝や近世日本を比較対象として検討したものである(共催、2024年1月)。2023年3月には、日本の若手研究者3名の報告に対して海外の研究者1名を討論者とするワークショップを開催した(共催)。

また、海外の研究者を招いたオンラインのセミナー、ワークショップを3回開催した(2021年9月(2日間)、2022年10月、11月)。海外の研究者を招へいた単独の講演会は2回開催した(2023年4月、2024年3月(共催))。そのほか、国内研究会はオンラインで3回(2回は共催)、ハイブリッドで2回(1回は共催)開催した。

上記の海外の研究者たちとの協働を通じて、研究成果を共有しあい、また、海外研究者との今後につながる研究協力関係が築かれた。

#### (8) 学会へのパネル参加

2022年12月に九州史学会で小シンポジウム「オスマン帝国における階層とジェンダー」を企画した(報告者6名)。2023年9月には、ウィーンで開催された第4回 Turkologentag(トルコ研究ヨーロッパ会議)に "Social Status and Self-image of Old and New Social Groups in the Late Ottoman Empire" というパネルを企画して参加し、オスマン帝国末期に新たに登場した社会集団(軍人、医師、劇場経営者)と古くからある社会集団(遊牧民)の社会的地位や自己イメージの形成について討議した。報告者は分担者の岩本、研究協力者の鈴木真吾・永島育、海外共同研究者のN.トゥルナ(ユルドゥズ工科大学)、討論者はA. クルムズ(マルマラ大学)であった。これらの企画により、研究成果の一部を公開発表し、意見交換を行った。

以上の研究を通じて、全体的な成果として、17世紀以降のオスマン帝国の社会を階層や社会集団、ジェンダーという視点から探究することにより、オスマン帝国社会に対する解像度を高めることができたと言える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Akiba Jun	4. 巻 87(1)
2. 論文標題 Farming out judicial offices in the Ottoman Empire, c. 1750-1839	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Bulletin of the School of Oriental and African Studies	6. 最初と最後の頁 29～49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S0041977X23000940	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Zeynep Dortok Abaci, Jun Akiba, Metin Cosgel, Bogac Ergene	4. 巻 66(1-2)
2. 論文標題 Judiciary and Wealth in the Ottoman Empire, 1689-1843	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the Economic and Social History of the Orient	6. 最初と最後の頁 43～84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/15685209-12341590	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 松尾有里子	4. 巻 92(4)
2. 論文標題 近世・近代オスマン帝国におけるウラマー名望家 エブスード家を中心にー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 史学	6. 最初と最後の頁 63-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川本智史	4. 巻 9
2. 論文標題 「異教徒の家」 - 1455年台帳からみる征服直後のイスタンブル	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤井一彰	4. 巻 第79巻第4号
2. 論文標題 16世紀後半のイスタンブルにおける飲酒行為と「禁酒令」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 35-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷部圭彦	4. 巻 29
2. 論文標題 オスマン帝国末期における法曹養成と宗教	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学史研究	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件(うち招待講演 3件/うち国際学会 16件)

1. 発表者名 Jun Akiba
2. 発表標題 Litigious People in Ottoman Society: A Study on Registers of Court Revenues
3. 学会等名 Turkologentag 2023 Vienna: The Fourth European Convention on Turkic, Ottoman and Turkish Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Iku Nagashima
2. 発表標題 From Loyalty to Merit: Changes in Military Uniforms and Self-Images of Ottoman Young Officers on the Eve of the Young Turk Revolution
3. 学会等名 Turkologentag 2023 Vienna: The Fourth European Convention on Turkic, Ottoman and Turkish Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shingo Suzuki
2. 発表標題 Striving for Social Status and Economic Stability: The Professionalization of Medicine in Ottoman Society at the Beginning of the Twentieth Century
3. 学会等名 Turkologentag 2023 Vienna: The Fourth European Convention on Turkic, Ottoman and Turkish Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nalan Turna
2. 発表標題 Late Ottoman Istanbul Theaters and Their Entrepreneurs
3. 学会等名 Turkologentag 2023 Vienna: The Fourth European Convention on Turkic, Ottoman and Turkish Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Keiko Iwamoto
2. 発表標題 Nomadic Appropriation of the Ottoman Legend: The Case of Karakecili Tribes in the Late Ottoman Empire
3. 学会等名 Turkologentag 2023 Vienna: The Fourth European Convention on Turkic, Ottoman and Turkish Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Satoshi Kawamoto
2. 発表標題 When It Rains in Istanbul: Weather and Ottoman Court Ceremonials in Pre-modern Istanbul
3. 学会等名 Workshop: Military Elites in the Early Modern Islamicate World and Beyond (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Iku Nagashima
2. 発表標題 A Preliminary to a Comparative Study of Turkish and Japanese Archeries
3. 学会等名 Workshop: Military Elites in the Early Modern Islamicate World and Beyond (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Jun Akiba
2. 発表標題 Schoolboys in Ankara and its Environs in 1836: An Analysis of the Population Registers
3. 学会等名 15th International Congress of Ottoman Social and Economic History, Zagreb (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤井一彰
2. 発表標題 飲んで捕われ、捕らえて飲んで スレイマン1世治世末期のガラタにおける飲酒記録
3. 学会等名 オスマン史研究会(第12回定例会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋葉淳
2. 発表標題 オスマン帝国シャリーア法廷の役割の再検討: 1840年代の法廷収入簿より
3. 学会等名 日本中東学会第39回年次大会(筑波大学)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋葉淳
2. 発表標題 オスマン帝国社会に生きた女性たち
3. 学会等名 NPO法人日本トルコ交流協会第25回講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋葉淳
2. 発表標題 オスマン帝国シャリーア法廷台帳再読
3. 学会等名 東文研セミナー
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 岩本佳子
2. 発表標題 「遊牧の伝統」の利用・活用・悪用:近代オスマン朝と現代トルコを中心に
3. 学会等名 第89回羽田記念館定例講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Natsuko Saji, Satoru Nakamura
2. 発表標題 Cataloging images of historical materials captured by individual researchers: Case study on Ottoman documents from Bosnia
3. 学会等名 The 3rd Islamic Trust Studies International Conference (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 守田まどか
2. 発表標題 18世紀イスタンブルのシャリーア法廷と法廷業務の集権化
3. 学会等名 日本オリエント学会第65回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岩本佳子
2. 発表標題 近代オスマン朝における遊牧民集団の「包摂」 アブデュルハミト 2 世期におけるエルトゥールル廟とカラケチリ族
3. 学会等名 2022年度九州史学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Iku Nagashima, Jun Akiba
2. 発表標題 The Social Origins of Ottoman Military Officers: 1896 Graduates of Kuleli Military High School
3. 学会等名 2022年度九州史学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoshi Kawamoto
2. 発表標題 The Guardians of the Imperial Harem: Baltacıar/Axe men and the Ottoman Palaces
3. 学会等名 2022年度九州史学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hatice Aynur
2. 発表標題 The Fountains of Ottoman Istanbul Constructed under Women's Patronage: Preliminary Observations
3. 学会等名 2022年度九州史学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松尾有里子
2. 発表標題 オスマン帝国近代の「投稿」する女性たち 女性雑誌の読者欄を手がかりとして
3. 学会等名 2022年度九州史学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川本智史
2. 発表標題 1455年イスタンブル調査台帳における住宅建築の分析
3. 学会等名 2022年度日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoshi Kawamoto
2. 発表標題 Istanbul in 1455
3. 学会等名 CIEPO (Comite International des Etudes Pre-Ottomanes et Ottomanes) 24th symposium, Thessaloniki (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jun Akiba
2. 発表標題 Visiting the Courtroom through Back Door: A New Look at the Ottoman Sharia Courts
3. 学会等名 Pacific Rim Ottomanists' Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Koh Choon Hwee, Madoka Morita
2. 発表標題 How to Keep the Horses Happy: Urban Crowding in Eighteenth-Century Istanbul
3. 学会等名 Pacific Rim Ottomanists' Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Satoshi Kawamoto
2. 発表標題 New Dorms for New Elites :The Baltacilar and the Ottoman Palatial Architecture in the Seventeenth Century
3. 学会等名 Pacific Rim Ottomanists' Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Eunjeong Yi, Madoka Morita
2. 発表標題 Reconsidering Mahalles of Ottoman Istanbul
3. 学会等名 Pacific Rim Ottomanists' Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jun Akiba
2. 発表標題 Muallimhane-i Nuvvab (1855-1924): Son Donem Osmanli Egitiminde bir Medrese-Mektep Sentezi
3. 学会等名 ISAMER Merkez Konusmalari, Bahar 2022 (Istanbul University) (オンライン) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川本智史
2. 発表標題 1455年イスタンブル家屋調査台帳に関する新知見
3. 学会等名 2021年度日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jun Akiba
2. 発表標題 Ottoman Judges as Ego-document Authors: A Case of Semdanizade Findiklili Suleyman Efendi
3. 学会等名 Symposium: Ottoman Ego-Documents, Istanbul (オンライン参加) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秋葉淳
2. 発表標題 オスマン帝国ウラマーの3種の任命・位階台帳
3. 学会等名 第3回オスマン帝国史研究セミナー (オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩本佳子
2. 発表標題 文書から何が分かるか? : ワクフ総局文書館所蔵命令台帳から見る母后ワクフと「徴税権の複相化」
3. 学会等名 東文研セミナー「第1回オスマン帝国史研究セミナー」
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 永田雄三(編)(秋葉淳)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 298
3. 書名 トルコ史(分担執筆:オスマン帝国の近代, 155-226頁)	

1. 著者名 山口みどり, 弓削尚子, 後藤絵美, 長志珠絵, 石川照子(編著)(秋葉淳)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 論点・ジェンダー史学(分担執筆:イスラーム社会における女子教育, 16-17頁, 法廷とジェンダー, 36- 37頁)	

1. 著者名 山口みどり, 弓削尚子, 後藤絵美, 長志珠絵, 石川照子(編著)(小笠原弘幸)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 論点・ジェンダー史学(分担執筆:宮廷のハレム, 38-39頁)	

1. 著者名 吉澤誠一郎、林佳世子(責任編集)(秋葉淳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 318
3. 書名 近代アジアの動態 19世紀(分担執筆:オスマン帝国の諸改革, 65-92)	

1. 著者名 林 佳世子(責任編集)(川本智史)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 西アジア・南アジアの帝国 16~18世紀(分担執筆:王権の象徴としての首都と宮殿, 165-166)	

1. 著者名 長沢栄治(監修)、岡真理、後藤絵美(編著)(松尾有里子)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 記憶と記録にみる女性たちと百年(分担執筆:近代トルコ女性の「リベルテ」を求めて, 36-41)	

1. 著者名 小笠原 弘幸	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 304
3. 書名 ハレム: 女官と宦官たちの世界	

1. 著者名 長沢栄治(監修)、服部美奈、小林寧子(編)(秋葉淳)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 教育とエンパワーメント(分担執筆:女子教育と女性教師の伝統--オスマン帝国の場合、31-34頁)	

1. 著者名 小林功、馬場多聞(編著)(澤井一彰)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 228
3. 書名 地中海世界の中世史(分担執筆:オスマン帝国と地中海世界、137-168頁)	

1. 著者名 鈴木董、近藤二郎、赤堀雅幸(編)(長谷部圭彦)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 826
3. 書名 中東・オリエント文化事典(分担執筆:西洋式近代教育の移入、642-643頁)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>東文研セミナー「オスマン史研究会(第12回定例会)」が開催されました <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueJul111031242023">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueJul111031242023</a>  秋葉教授が研究代表者を務める科研グループが、第4回トルコ学ヨーロッパ会議(Turkologentag) <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuNov161103242023">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuNov161103242023</a>  東文研セミナー「ワークショップ “Military Elites in the Early Mode”」 <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueJan301623482024">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueJan301623482024</a>  東文研セミナー “Petitions and “Individuals”: First-Person” <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuMay21321422024">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuMay21321422024</a>  東文研セミナー「オスマン帝国シャリーア法廷台帳再読」が開催されました <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuMay21519292024">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuMay21519292024</a>  東文研セミナー「第1回 オスマン帝国史連続ワークショップ」が開催されました <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueNov81004042022">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueNov81004042022</a>  東文研セミナー「第2回 オスマン帝国史連続ワークショップ」が開催されました <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueNov81043462022">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueNov81043462022</a>  東文研セミナー“Japonya'da Sohbet-i Osmaniye-6”が開催されました <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=MonMar201523072023">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=MonMar201523072023</a>  “Pacific Rim Ottomanists' Conference”が開催されました <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=MonMar271405402023">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=MonMar271405402023</a>  東文研セミナー「第2回オスマン帝国史研究セミナー」が開催されました <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=MonOct41501302021">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=MonOct41501302021</a>  東文研セミナー「第1回オスマン帝国史研究セミナー」が開催されました <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueJan51045562021">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueJan51045562021</a>  東文研セミナー「第3回オスマン帝国史研究セミナー」が開催されました <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuMar311522552022">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuMar311522552022</a></p>
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川本 智史 (Kawamoto Satoshi) (10748669)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・講師 (12603)	
研究分担者	小笠原 弘幸 (Ogasawara Hiroyuki) (40542626)	九州大学・人文科学研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	守田 まどか (Morita Madoka) (40896304)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員 (12603)	
研究分担者	松尾 有里子 (Matsuo Yuriko) (50598589)	成蹊大学・文学部・客員研究員 (32629)	
研究分担者	澤井 一彰 (Sawai Kazuaki) (80635855)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
研究分担者	岩本 佳子 (Iwamoto Keiko) (90736779)	京都大学・文学研究科・准教授 (14301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	長谷部 圭彦 (Hasebe Kiyohiko) (60755924)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐治 奈通子  (Saji Natsuko)		
研究協力者	鈴木 真吾  (Suzuki Shingo)		
研究協力者	上野 雅由樹  (Ueno Masayuki)  (10709538)	大阪公立大学・大学院文学研究科・准教授   (24405)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 第1回オスマン帝国史連続ワークショップ	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 第2回オスマン帝国史連続ワークショップ	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 環太平洋オスマン帝国史研究国際会議	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 第2回オスマン帝国史研究セミナー	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 ワークショップ “Circles of Trust: Marriage, Village Guarantors, and Private Reading Groups in the Ottoman Empire”	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Workshop: Military Elites in the Early Modern Islamicate World and Beyond	開催年 2024年～2024年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
トルコ	ブルサ・ウルダー大学	ユルドゥズ工科大学	マルマラ大学	他2機関
米国	ヴァーモント大学	コネティカット大学	カリフォルニア大学デービス校	他2機関
韓国	ソウル大学			